

10 レガシー事業について

事前キャンプ招致等に取り組み、海外代表チームや競技団体との関係を深めてきたことで、インドネシアパラバドミントン代表チームの事前キャンプが実現し、市民がパラスポーツに親しみ、ホストタウンとしての国際交流を深める環境を充実させることができました。また、スポーツ祭東京2013をきっかけに誕生した、まちだサポーターズの活動をさらに充実させることができました。これらの事業は、大会レガシーとして、2022年度以降も継続し、推進していきます。

パラスポーツの理解促進・普及啓発

パラスポーツへの理解促進、普及啓発に関して、町田市では今に至るまでに、市立陸上競技場でのパラ陸上の大会や総合体育館でのブラインドサッカーの試合、パラバドミントンの大会を開催してきました。

2017年度から市立小学校で日本障がい者バドミントン連盟から選手を招いてパラバドミントン体験会を実施してきました。また、市立総合体育館での国際大会の開催や、各国代表チームの合宿を受け入れるなどの実績から、2019年12月には日本障がい者バドミントン連盟と「パラバドミントンサポートシティに関する覚書」を締結しました。

パラリンピックが終わった後も、合宿の受け入れや大会を実施した実績とそこで築いた各関係団体との関係性を活かして、キャンプや大会を招致しパラスポーツのさらなる理解促進・普及啓発を図ります。



第24回関東パラ陸上競技選手権大会



ブラインドサッカーチャレンジカップ2018



パラバドミントン体験会



ヒューリック・ダイハツJAPANパラバドミントン国際大会2017

まちだサポーターズの活動の充実

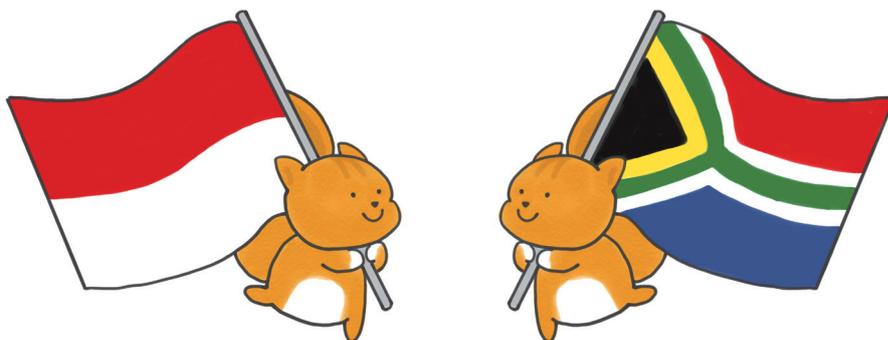
まちだサポーターズは、スポーツ祭東京2013を機に結成し、東京2020大会を目指して活動を続けてきました。ボランティアを続けて行ってきた経験とそこで生まれた人との繋がりがあったからこそ東京2020大会での活動を無事に終えることができました。今までの蓄積と今大会で新たに得られたまちだサポーターズの経験と人との繋がりを絶やすことのないよう、今後も組織を継続し、市内のスポーツイベント等で活動することで人とまちを一つにするボランティアを目指していきます。



"CHECK"
まちだサポーターズの活躍の様子は、25ページに詳しく紹介しています！

ホストタウンとしての国際交流

東京2020大会開催を機にホストタウンに登録した南アフリカ、インドネシアとの交流を大会後も継続し、スポーツ、文化などの多様な分野で市民の国際理解を深めることにより、多文化共生のまちづくりを推進します。



"CHECK"
ホストタウン事業は、39ページで詳しく紹介しています！